

姉妹協約がつかないだ絆を受け継ぐ子どもたち

## 半世紀の時を超え

### 先人の思いはつながっていく

小さな島を襲った新型コロナウイルスのクラスター。来島自粛という非常事態の対応に追われる与論島の人たちを思い、自分たちができることを必死に考え、行動した子どもたちに話を聞きました。

与論中学校の生徒の皆さんへ

与論町は私たちが暮らしている田代と昔から交流があり、現在も夏休みに小中学生が訪問させていただくなど繋がりがあります。訪れた小中学生は、美しい海での様々な活動をはじめとする貴重な体験や与論町の方の温かいおもてなしが心に残り、一生の思い出ができた大変感謝しています。さて、今回、お手紙を書かせていただいたのは、与論町が新型コロナウイルスの影響で困っているというニュースを聞き、縁ある与論町の与論中学校の皆さんと交流することで、お互いに新型コロナウイルスに負けない元気を出し、中学校生活を乗り切ることができたらと考えたからです。

田代中学校は、昨年度の3月2日からの約1か月間、今年度の4月22日から約3週間、学校が休校になりました。夏休みは8月1日から31日までの短縮となりました。卒業式は卒業生のみ、入学式も一部省略で行われました。部活動は多くの大会が中止となり、最後の地区総体もできませんでした。私は野球部の主将をしていましたが、なぜ自分たちの時にという正直悔しい思いがあります。でも、苦しいのは私だけではないこと、一緒に悩み、涙した仲間や先生がいること、何よりこの経験は絶対無駄ではないという強い思いで、乗り越えることができました。

2学期は、体育大会、文化祭、延期になっていた修学旅行等があります。通常通りではなく、縮小や変更が出てくるかもしれません。そのような中でも、田代中の仲間と協力して頑張りたいと思います。

きっと与論中学校も同じように、今までも多くの行事が変更になったり、今後も変更が出たりすることもあると思いますが、お互い新型コロナに負けずに、ぜひ乗り越えていきましょう。早く終息して欲しいですが、その間、私たち中学生が元気な姿を見せて、地域の皆さんにもエネルギーを届けたいですね。最後までお読みいただきありがとうございます。

錦江町立田代中学校 3年 生徒会長 徳永 莉玖



Interview

田代中学校 3年 徳永 莉玖 さん(前生徒会長)

田代中の生徒会を代表し、与論中学校の生徒に向けてメッセージを送った前生徒会長の徳永くん。「自分たちも同じ立場ならきっと不安。少しでも支えになれば」と思いを話してくれました。

田代中学校の皆さまへ

お返事が遅くなり申し訳ありません。先日は心温まるお手紙を送っていただき、ありがとうございます。とても嬉しかったです。与論島では、7月の新型コロナウイルスの件はひとまず落ち着き、日常を取り戻しています。そちらはいかがでしょうか。田代中学校がある地域も大変ではないでしょうか。

与論中学校では生徒集会を開催して、皆さんからのお手紙を紹介させていただきました。その後の感想では、多くの生徒が同じように行き事が増えるなかから、私たちに励ましてくれる気持ちに感動し、一緒にこの状況乗り越えていきたいという思いを抱いていました。

与論島には中学校が1校しかなく、他校の生徒会との交流が難しい状況がありますが、今回、姉妹町というご縁で交流し、寄り添ってくれる中学校があることを知り、とても心強かったです。

私たちは、11月上旬にある文化祭に向けて準備をしています。皆さんの中学校でも文化祭が行われる時期でしょうか。与論中では、発表日を学年ごとに分散する形式で行われます。形式は違いますが、発表に込める思いは変わらず、どの学年も昼休みや放課後を利用して劇やエイサーなど一生懸命取り組んでいます。

3年生にとっては中学校最後の文化祭なので、実施できることに感謝し、観てくれる方を元気にできるよう頑張りたいです。田代中学校の文化祭も無事開催できることを祈っています。

最後になりますが、今回は本当に私たちのことを心配してくださってありがとうございます。新型コロナウイルスに負けずに頑張ってください。そしてこれからも引き続き田代中学校と交流できることを楽しみにしています。

与論町立与論中学校 生徒会代表 3年 吉田 莉萌

### 寄り添うことで乗り越えられる

今年7月、与論島で新型コロナウイルスによるクラスターが発生。町では来島自粛を呼びかけるなど緊急の対応がとられました。人口5千人ほどの小さな島に感染症指定医療機関はありません。さらに3割以上が重症化

スクの高い65歳以上。住民たちの間には大きな不安が広がりました。白い砂浜と透明な海から「東洋の真珠」とも言われ、年間7万人の観光客が訪れる与論島。特に夏休みだったこともあり、来島自粛は観光関係者の経営に大きな打撃を与えました。また、小中学校も臨時休校に追い込まれるなど、島全体が目に見

えない敵の恐怖に生活は一変。小さな島で起きた前例のない事態は新聞やテレビで大きく報道されました。「少しでも自分たちができること」を考えた錦江町の子どもたちは手紙に思いを込め、やりとりを始めます。苦しいとき、不安なときこそ支え合う。気持ちを伝え、寄り添ってくれ

る人がいることを知ることが、前を向く原動力になるはず。

### 与論中の生徒と手紙で交流 苦しいときこそ支え合う

小学生のときトワイライト事業で与論島を訪れました。空と海がとても青く綺麗だったことが印象に残っています。ただ、それ以上に受け入れてくれた島の人たちの温かさが嬉しかったことは今も忘れません。今回、手紙を書いたのは、そんな与論島で新型コロナウイルスが発生し、同じ中学生が休校や行事自粛など困っていると聞いたからです。もし自分が同じ立場なら、どんなに心細いか、不安が考えました。今、自分たちができることは、手紙を送ることくらいですが、この事態を乗り越え、収束したら交流を深めたいです。

Interview

### 与論の学校給食に大原のもち米が！ 大原小の児童がもち米届ける

大原小の全児童14名が春から育てた、もち米25kgを与論の小学校へ届けました。新型コロナによる休校や行事の相次ぐ中止に悩む姉妹町の子どもたちを応援したいとメッセージも同封。水田のない与論島の小学生に栽培の様子も分かるよう写真も添えて思いを伝えました。収束して会える日を願って。



写真左から6年▶野口美羽さん、5年▶岩切和博くん、谷口琉依くん、宮田蓮くん